

米子市の市営住宅

寺西 厚志

I はじめに

II 各住宅の特徴—調査結果のまとめ—

- 1) 調査方法
- 2) 調査結果

III 住宅の比較・分布・推移—調査結果からの考察—

- 1) 比較
- 2) 分布
- 3) 推移

IV おわりに

I はじめに

人口の減少が著しい山陰の中で、米子市は約 14 万人の人口を抱える有数の都市である。戦後目立った人口の減少はないが、その中でどのような住宅地開発や住宅改善が行われてきたのだろうか。この報告書では、主に現存する市営住宅から、米子市の市営住宅建設の推移と、その時期による相違や分布を調べ、米子市の戦後の住宅政策について、調査した結果のまとめと結果からの考察にわけて述べていく。

現地調査については、2001年8月27日～8月31日に行い、市内各地の市営住宅とその周辺について見て周った。また、市営住宅やその周辺の住民の方からヒアリングを行うことができた。さらに米子図書館や山陰歴史館、米子市役所でも、詳しい説明を受け、資料収集を行うことができた。これらについても考察の際に参考にしている。

II 各住宅の特徴—調査結果のまとめ—

1) 調査方法

調査の方法は、さきにも少し述べたが、5日間に分けて、移動は主に徒歩やバスなどを使い、米子市内の市営住宅とその周辺にある住宅をほぼすべて見て周った。そしてそれぞれの地域で、写真を撮り、住民の方にヒアリングを行った。また、各住宅での調査のほか、1日目には山陰歴史館で、2、4日目には米子図書館で古い地図や米子市の広報誌、市史などの貴重な資料から関係するものを探した。そして、4、5日目には米子市役所の建築課、都市整備課にてヒアリングを行った。

住宅での調査は、1日目は米子市に到着した日であり、午後からの調査でもあったので、限られた時間の中で、米子駅前から市役所周辺にかけての市内中心部に立地する市営住宅を見て周った。2日目は北西部の皆生や福原地区へ、3日目は午前中に北部へ、午後はいったん米子駅に戻り南部の青木永江地区へ、4日目は南西部の安来市との境の^{いんだちよう}陰田町、^{きんかいちよう}錦海町と米子駅南東部にある道四南住宅へ、5日目は北西部を、最も奥にある^{とみまき}富益住宅から順に中心部に向かって周った。それぞれの日の各住宅別の調査結果は次のとおりである。各住宅の位置については後の第1図を参照されたい。

2) 調査結果

(a) 1日目 (8月27日, 中心部)

大工町住宅は、中層1棟で、駅前的大型スーパーのすぐ裏に立地している。ここは、隣の明治町という現在は大きな駅前通りが通っているところの区画整理再開発事業に関連して建設された住宅である。

中層2棟の^{まんのうちょう}万能町住宅(写真1)も駅前すぐに立地し、米子駅前住宅地区改良事業によって建設された住宅である。この住宅の特徴は、写真にも写っているように1階に店舗が設置されていることで、現在クリーニング店や整骨院などになっている。これは改良事業における住民への配慮であったと思われる。



写真1 万能町住宅

米子駅前から少し離れた、JR 境線の富士見町駅近くの線路沿いに富士見町住宅(写真2)、^{ぼくろうまち}博労町住宅(写真3)がある。富士見町住宅は高層と中層がL字型になっている新しい建物で、新しく建替えられたものである。ここはかつて米子市最古の市営住宅が建っていたが、建替えの際に米子市営住宅初の高層住宅が建てられた。一方、線路をはさんで反対側にある博労町住宅は、2階建てで、かなりの住宅密集地の中にある。住宅開発される前、このあたりは、博労町の地名の由来にもなっていると



写真2 富士見町住宅



写真3 博労町住宅

いわれている馬小屋や桑畑であったらしい。

東町住宅(写真4)は、万能町住宅と同様に1階に店舗があり、食堂店などが入っている。ここも米子駅前住宅地区改良事業に関連して建設された住宅である。また、最近新たな「米子駅前西土地区画整理事業」に関連して移転建替えが行われ、中層から高層になった。

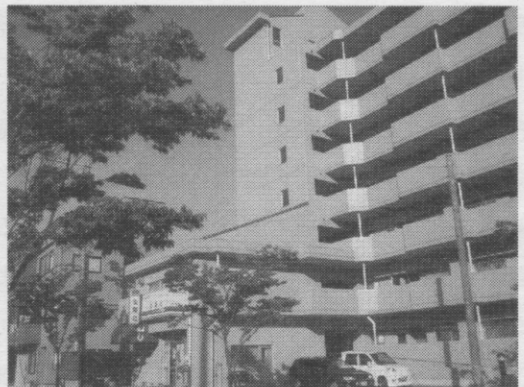


写真4 東町住宅

(b) 2日目 (8月28日, 北西部)

^{かいけ}皆生温泉のバス停からしばらく西に歩いたところ

にある中層の上福原住宅（写真 5）は、住居表示の「皆生温泉四丁目」が示すとおり、皆生温泉の旅館・ホテル街の外れに立地している。また海岸にかなり近く、冬は日本海から強風がふきつけると思われる。この住宅の近くには、上福原第 1、上福原第 2、特別上福原、福原、といった県営団地も多い。またこの上福原住宅の南西には、2001～2003 年度に予定している建替えのため、現在は新規居住者募集が停止されている市営の西福原住宅がある。



写真 5 上福原住宅

上福原住宅から南東に行ったところに皆生住宅がある。ここは、県営の皆生団地と隣接して 2 棟ずつ建っているが、もともと県営の住宅が建っていたところが、建替えられるときに市に一部譲渡され、中層で共通した、白色と緑色のデザインのもので建てられたということである。（写真 6, 7）



写真 6 市営皆生住宅



写真 7 県営皆生団地

(c) 3 日目（8 月 29 日、北部・南部）

JR 境線の後藤駅からしばらく歩いたところに義方町住宅がある。この住宅は中層で、最近建替えられたようであるが、その前のものは低層で、周りに多い民間の木造アパートとほぼ同時期の 1955 年前後に建てられたようである。

義方町住宅から少しはなれて JR 境線の線路沿いにあるのが三本松住宅で、ここは小さな平屋のアパートである。

そこからさらに北部の、弓ヶ浜海岸から防風林を隔てたところすぐにりょうみつやなぎ両三柳住宅がある。この住宅は中層で、周辺は一戸建ての分譲住宅がずらりと並ぶ三柳団地や教職員住宅、民間の社宅、建設中の警察官舎など大規模な総合住宅となっているが、その中でも、県営の三柳団地が最も規模が大きく、中層が 10 棟と平屋のものが 3 棟並んでいる。また加茂新川をはさんで弓ヶ浜公園という遊園地が立地している。

三柳団地から国道 431 号線をはさんで南に加茂住宅（写真 8）がある。ここは広い用地に建ち並んでいたのを最近高層 2 棟に建替えたので、その敷地を利用し、公園や駐車場等が広い。また周辺に新